



「週に1回、Dictionary!」

むげんだい

夢限大 ∞



「友愛」
「礼節」
「協力」

<http://www.kizu.ed.jp/kizu2-jhs/>

木津川市立木津第二中学校

令和元年9月24日(火) vol.19

才能がないと言い切れるだけの 努力はしたのか…？



マンガ「MAJOR (メジャー)」にあるエピソードを紹介します。
主人公の吾郎とともに野球を続けてきた寺門は、ある日自分の力に限界を感じます。名門高校の為、他に才能あるピッチャーが多く、彼らには勝てないと、辞めることを決意しました。

仲間が必死に引き止めるも、「才能の違うおまえらに、頑張れだの努力しろだの気軽に言われたくねえ。努力したってレギュラーになれねえ奴はなれねえんだ!」と。

吾郎は言います。

「おまえ、本当に才能がねえんだろうな？つまり、本当に才能がねえと言い切れるだけの努力はしたのかって訊いてんのさ」

もちろん努力をしてきたと、寺門は答えます。みんなと一緒にキツイ練習からも逃げ出さずに頑張ったと。その言葉を聞き、吾郎は「ならいいんだ」と立ち去ろうとします。

その時、寺門からたまたま足のサイズが同じだからと、部から支給されるスパイクを渡されることに。吾郎は「この前3足目のスパイクをはき潰したところだから助かる」と受け取りますが、寺門にとってはそのスパイクは1足目…。その時初めて、自分はまだ1足目なのに吾郎はもう3足もはき潰すほどに練習していたんだと気づいたのです。

「他人にやらされてた練習を努力とは言わねえだろ。好きな野球して将来飯食おうなんて凶々しい特権、与えられた宿題こなした程度で手に入るわけねえじゃん。まあでも自分で努力したってんならいいんじゃないか？本当の努力なんて、他人には知るよしもねえんだからな」

あわてないあわてない、 ひとやすみひとやすみ

あのトンチで有名な一休さんが、亡くなる前に弟子達に三巻の遺言を残したそうです。もしお寺でどうにもならないほど、困ったことがあったら、この三巻の遺言を開けなさい、と。一休さんが亡くなって何年かして、お寺にほんとうに困ったことが起こり、その遺言書を開けることにしました。するとそこには…



一巻目には **大丈夫**
二巻目には **心配するな**
三巻目には **何とかなる**

困ったときに、一番ほっとする言葉は「大丈夫」、安心する言葉は「心配するな」、希望が持てる言葉は「何とかなる」です。

過去はどうやっても変えられません。そして、未来は誰もわかりません。すると残るのはこの**今だけ**。ならば、この**今**を**一所懸命**生きるしかありません。一所とは、**今この場**のことです。そこに命をかけるのが**一所懸命**。**一心不乱**に勉強や部活動に励んだり、わき目も振らずに**集中**しているときは他のことを忘れていきます。「**困ったことや、心配ごとの9割以上は実際には起きない**」とも言われます。「**大丈夫、何とかなるさ**」の気持ちで、**今**を**一生懸命**に生きましょう。「**あわてないあわてない、ひとやすみひとやすみ**」の精神で!